

大丈夫「らしく」しなくても

中一

自分は、LGBTQのT、トランスジェンダーに近い存在です。自分は、まだ小さいころ、女の子が見るようなアニメは好きではなく、男の子が見るようなアニメが好きでした。一方で、自分の中で女の子は女の子らしくしなければいけないとも思っていました。小学校のランチマットはかわいいいものに、上ばきぶくろや鍵盤ハーモニカはピンクにしました。そんな女の子らしいものに囲まれながら小学三年生になりました。

ある日、お母さんが、

「髪、短くしてみる？」

と聞いてきました。自分は、

「女の子らしくしなくていいの？」

と聞くと、お母さんは優しく、

「女の子らしくしなくて平気なんだよ。」

と教えてくれました。自分は女の子らしくしなくてもいいことを知り、髪をバツサリと短く切りました。その出来事があってから、自分は自分らし

くいようと思いました。「女の子らしく」といつて買ったものを買直して、自分の好きなものに向き合って、自分は自分らしくなれました。このきっかけをくれたお母さんにはとても感謝しています。

小学五年生ぐらいになったとき、男になりたいな、と考え始めたことがありました。そんなある日、ある友達が、

「なんで男になりたいの？おまえは女なのに。」

と言ってきました。自分は、

「体の成長がイヤだから、自分に合っているから。」

と説明しました。それから何週間ぐらいか経って、自分は話のネタのような人物になってしまいました。「あいつ男になりたいらしいぜ。」などのうわさで、クラス全員に「自分が男になりたい。」という話が広まりました。バカにする人もいれば、はげましてくれる人もいました。自分はやめてほしいと言いましたが、なかなかやめてくれない人もいました。

小学六年生になって、自分はその話をされるたび毎晩泣きました。そんなある日、担任の先生が

みんなに自分が悲しんでいることを伝えてくれました。それからクラスはみるみる変わっていきました。自分のことをつい女と呼んでしまっても、ハッとした表情を浮かべ、すぐに謝ってくれるようになりしました。たまにひどいことを言われるときもありましたが、今では全くそのようなことはありません。みんなが新しい、違った考えをもつ自分を認めてくれたのです。

人は生まれながらにして、平等ではないかもしれませんが。しかし今、平等にするためには、「周りの理解」が必要だと考えています。身近に自分のような人がいたら、相手を否定せず、受け入れてみてください。自分のような思いをしている人がいるなら、自分は、あなたにこう伝えたいです。「男らしく、女らしくしないで、自分らしく生きてください。」と。